

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
昭和54年6月25日 第12報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Microcystis</i> sp.*	40		
(藍) <i>Aphanothece clathrata</i> *	1240	○	
(藍) <i>Aphanothece</i> sp.*	60		
(藍) <i>Merismopedia</i> sp.*	60		
(藍) <i>Phormidium tenue</i> *	340		
(藍) <i>Raphidiopsis</i> sp.*	60		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	200		
(珪) <i>Attheya Zachariasii</i>	20		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Pediastrum duplex</i>	20		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	3200	◎	◎
(緑) <i>Glosterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	60		
(緑) <i>Glosterium</i> sp.	60		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	60		○
(他) その他の植物プランクトン	40		
(藍) 藍藻綱	1740	31.6	19.3
(黄) 黄緑藻綱	60	1.1	1.1
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	240	4.4	4.4
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	20	0.4	0.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	3400	61.8	74.8
(他) その他のプランクトン	40	0.7	0.0
総細胞数	5500	総体積	8.05E+06
種類数	16	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし \*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## 植物プランクトン優占種

第1優占種		細胞数 (細胞数/ml)
緑藻綱	<i>Pediastrum biwae</i>	3200

第2優占種		細胞数 (細胞数/ml)
藍藻綱	<i>Aphanothece clathrata</i> *	1240

### 植物プランクトン第1優占種



***Pediastrum biwae***  
(ビワクンショウモ)  
緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は1本の角状突起を持ち、突起同士が対をなすのが特徴である。琵琶湖の固有種とされ、ビワクンショウモと呼ばれている。

### 植物プランクトン第2優占種



***Aphanothece clathrata*\***  
(アフアノテーケ)  
藍藻綱

細胞は、長楕円形で長さ3.5~4.5  $\mu\text{m}$ 、幅0.6~0.2  $\mu\text{m}$ 。非常に多数の細胞が寒天質の中に集まり、群体を作る。群体はいろいろな形がある。琵琶湖では北湖で夏秋に多く見られる。